

第32回横浜食肉市場ミートフェアで県内生産者が上位入賞

令和2年9月11日（金）、第32回横浜食肉市場ミートフェアが開催されました。ミートフェアは、例年4月に横浜食肉市場で開催されている牛肉のコンテストで、全国の肉牛生産者が牛肉の品質を競うイベントです。当初、新型コロナウイルスの影響で開催が見送られていましたが、さまざまな調整を経て開催するに至りました。

ただし、例年はフェア当日に出品者を含む生産者や関係者などが出品された牛肉を観覧し、褒賞授与式なども盛大に行われますが、今年度は観覧と褒賞授与式を中止としたため、ややさみしい雰囲気の中での開催となりました。

日本食肉格付協会や全農、横浜市、当所等の技術者が審査員となり、日本食肉格付協会が定める牛枝肉取引規格に基づき、枝肉を定められた位置で切開し、その断面の赤肉（ロースやバラ）の肉色や肉量、各筋肉の霜降りの度合いなどの項目が審査されました。

出品区分は交雑種の部、黒毛和種の部の二つあり、本年度の出品頭数は第1部・交雑種31頭（去勢12頭、雌19頭）、第2部・黒毛和種126頭（去勢89頭、雌37頭）、合計157頭でした。

出品された枝肉は、いずれも高品質で甲乙つけがたく審査は難航しましたが、最終的に交雑種4点、黒毛和種17点を上位に選定しました。県内から出品された交雑種7点、黒毛和種3点のうち、交雑種の1点が交雑種の部で最優秀賞を受賞しました。

依然として、新型コロナウイルスの影響から外食需要が回復しておらず、枝肉価格の低迷が続き、肉牛肥育経営は苦しい状況にあります。

当所では、県内の肉牛生産者が安心して経営を継続していけるよう、日頃の飼養管理技術向上等、生産基盤の強化を支援していきます。

備考

○今回最優秀賞を受賞した生産者は、同フェアで3年連続最優秀賞を獲得しています。